

日本初！ウィズコロナ時代の新しい街歩きエンタメ

漫画「花の慶次」をご存じだろうか。戦国の世を、当代きっての「傾寄者」として生きた武将・前田慶次の生きざまを描いた作品で、パチンコ台になってロングヒット、さまざまなコラボグッズも発売され、連載終了後の今も根強い人気を誇る。慶次が晩年を過ごした山形県米沢市では、そのキャラクターを生かして観光振興を図ってきた。

そして、連載開始から30年となる2020年、慶次の縁により米沢で始まった日本初の観光案内サービスが「ボイシネウォーク 花の慶次～米沢傾寄巡り～」だ。NECなどが推進する「空間音響MR」という技術を駆使した新しいエンターテイメントで、独自の「音響定位」と「映像AR（拡張現実）」技術の融合によりこれまでにない臨場感が体験できるという。

参加者は専用のイヤホンをつけ、スマートフォンを手にコースを歩く。すると、スポットに近づくと自動的に耳から音声が流れてくる。ただ音が流れるだけではなく、顔の向きや立ち位置によって聞こえる方向、音量などが変わってくるため、まるで銅像などから「話しかけられている」感覚を味わえる。またそこにスマホをかざせば、リアルな景色の中に慶次や直江兼続、伊達政宗といったキャラクターが登場。歴史上の人物に、ガイドしてもらえる仕組みとなっている。

人と接触する機会が少なく、参加者の位置情報から集団や密を回避できるためウィズコロナ時代の観光スタイルとしてふさわしく、「多言語化はもちろん、教育分野などでも活用できる」と関係者は期待を寄せる。そのような画期的なガイド、ぜひ試してみたいと問い合わせも多いそうだが、冬期は史跡が雪に覆われることからサービスを休止しているという。再開は4月頃の予定。新型コロナウイルスの感染拡大が収まった後は、慶次との街歩きを楽しみに、ぜひ米沢に足を運んでほしい。

山形新聞社 広告局企画開発部副部長 金森由紀



現実の銅像の前に、キャラクターが登場



イヤホンを装着、スマホを手にボイシネウォークを楽しむ参加者